

てんまんぐう
天満宮



じっそうじ みなみ いち じっそうじ ゆらい しょうわがんねん
 実相寺のすぐ南に位置する。実相寺の由来によると、正和元年（1312
 ねん きょうと ひえいざんそうじいんがくとうしゅめいぜんじ かんとう じゅんれい とちゅう き
 年）、京都の比叡山総持院学頭守明禅師が関東を巡礼の途中ここに来て、
 すがわらのみちざね れいむ み とうじ こうはい ようす み むかし さか
 菅原道真の霊夢を見て当時、荒廃していた様子を見て昔のように栄えさせ
 てんまんぐう そうえい つた
 ようと天満宮を造営したと伝えられている。

すがわらのみちざね がくもん かみさま あお まいとし がつすえ にちようび れいさい ひら
 菅原道真は、学問の神様として仰がれ、毎年2月末の日曜日には例祭が開
 じゅけんせい はじ おお さんばいしゃ にぎ
 かれ、受験生を始め、多くの参拝者で賑わう。